

令和5年度 港区立高松中学校経営計画

1 教育目標

個を生かし、豊かな人間性と社会性を育む教育を推進する。

- ・深く考え、進んで学ぶ人
- ・思いやりのある心豊かな人
- ・健康でたくましく生きる人

目指すべき姿「夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」

(港区学校教育推進計画(令和3年度から令和8年度)、

2 中期目標と方策【高松中スクールビジョン 2023】

(1)「高松中生のあたりまえ」の行動化を教育活動の根幹とする。

【方策1】「高松中のあたりまえ」の行動化を促す活動を創意工夫するとともに、家庭・地域・関係諸機関と協同して定着に努める。

【方策2】あらゆる教育活動の場で、生徒自らが学びの主体者であると自覚をもち、高松中としての自覚・誇り・責任をもたせる。

高松中生のあたりまえ

- あいさつ・返事は元気よく！
- チャイム始業
- 自ら正す「フォーマルゾーン」、人を認める「三行日記」

(2)目の前の辺生徒のために何ができるかを行動指針とする。

【方策1】会議等を効率的に運営し、生徒と向き合う時間を確保する。

【方策2】問題、行動等の早期発見、迅速で的確な対応を目指し、組織的に課題解決に取り組む。

(3)いじめ・体罰等の根絶を図り、安全、安心な教育活動を展開する。

【方策1】「港区立高松中学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的に対応し、早期発見、早期解決を目指す。

【方策2】報告、連絡、相談、記録を徹底し、全職員で対応する。

(4)創意、工夫した授業を行い、授業で信頼関係を築く。

【方策1】教材研究及び生徒理解に資する研修に努め、わかる授業、楽しい授業、参加できる授業を実現する。

【方策2】校内研究の取り組みを意欲的に実践し、授業力を向上させる。

(5)規律ある授業を行い、授業で生活指導の基盤を養う。

【方策1】日頃より規範意識を育む指導を行い、授業の規律維持に全力を尽くす。

【方策2】生活指導の原点は日々の授業であることを共通認識し、規律とけじめのある授業に向けた取組を行う。

(6)家庭と協力し、家庭教育の充実と学習習慣の確立を図る。

【方策1】保護者に家庭教育の重要性についての理解と協力を要請する。

【方策2】「高松生活ノート」の充実した活用を図り、家庭学習を確立する。

(7)事前指導及び事後指導を充実させ、教育効果を高める。

【方策1】道徳、総合的な学習の時間、特別活動における諸活動を「高松の教育計画」として位置付ける。

【方策2】諸活動の成果が発表できる場を意図的、計画的に設けることでより教育効果を高める。

(8)幼稚園・小学校との連携を深め、中学校教育の基盤づくりを共に行う。

【方策1】学区域の幼稚園や小学校との交流・連携活動を通して「高松中生のあたりまえ」につながる教育を一体とな
って行う。また、入学前の「新入生オリエンテーション」などを行い「中一ギャップ」解消を図る。

【方策2】高松アカデミーをより一層充実させるとともに、港区教育研究会での研究活動も活用し、教科における幼小
中一貫を図り、中学校入学時の学力の基盤づくりを行う。

(9)生徒・保護者・地域との語り合いを大切にした共感の教育を進める。

【方策1】生活指導は対話を重視し、信頼関係を築く絶好の機会とする。

【方策2】地域の所行事に参加し、地域に根ざした学校を推進する。

(10)教職員一人ひとりが生徒のために〈プラス α〉の行動に努める。

【方策1】来校者や電話対応に心配りし、迅速かつ丁寧に対処する。

【方策2】潤いのある校内美化、鮮度の高い校内掲示・細心の安全管理に心がけ、「気付き対応」を推進する。

(11)情報の共有に心配りし、公平で公正な、明るい職場環境を作る。

【方策1】常に組織の一員であることを自覚し、協力、協同して対処していく。

【方策2】互いに心配りし、時間管理、健康管理に努める。

3 今年度の重点項目

(1)確かな学力の育成

- ① 魅力ある授業改善＜生徒が学びの主体者として、手応え・達成感を感じる授業の実施＞
 - ・生徒が主体的に考え、話し合い、表現の場を確保し、知識の拡充と活用につながる授業を行う。
 - ・生徒が学ぶ楽しさ、学ぶ意義を理解できる授業の工夫や教科間の連動した指導計画の作成及び定期的な情報共有を行い、教科横断的な視点をもった授業を全教科、領域も含めて実施する。⇒関連する教科間の単元計画や領域等を確認する。
⇒単元や題材の導入時等で関連する教科や SDGs、学校行事での体験、社会生活にかかわる内容を紹介する。(例:SDGsの番号を週案や黒板に板書する学習目標(ねらい)の横に記載するなど)
- ② ICT 機器の利便性を生かした授業を行い、協働的な学びと個別最適な学びを確保する。
⇒校内研究等でiPadの活用状況の確認と拡充について検討する。
⇒実践例を基に、本校で取り組める部分の抽出と先行モデルケースの選定等を行い負担のない範囲で進める。
⇒会議用資料のペーパーレス化や担任の回収作業、未提出確認作業の負担軽減などにも活用し、働き方改革にも生かす。
- ③ チャイム始業の徹底、学びに向かう意識の醸成につながるかわりを日常的に行う。
⇒授業規律はもちろん、生徒の主体性を育みつつ人権感覚を高める生活指導を学年・学級を超えて全校体制で組織的に行う。
- ④ 家庭との連携強化による家庭学習の充実
 - ・生徒との教育相談を随時行い、信頼関係を構築するほか、保護者とも必要に応じて情報共有を十分にを行い「学年＋1時間」の家庭学習時間を目指す。⇒第1学年時から進路について意識をもたせ、家庭学習の重要性について理解を促進させる。
(例:キャリアパスポートの充実)

(2)未来を切り拓く力の育成

- ①生徒が生きるSociety5. 0時代を意識して、課題解決能力や持続可能な社会のあり方を考えながら他者と協働する素地を全教育活動で育成する。
⇒指示待ちではなく、生徒自ら考え提案できるかわりをとおして自主的な集団を育成する。
 - ・職場体験や宿泊行事等で実社会を知ったり経験したりする機会を、保護者・関係機関等との協働により拡充していく。⇒3年間休止していた関係機関との連携を再構築し、with コロナの中での体験学習等の再開について熟議し、実施可能な部分から行う。
⇒生徒自らが考え、課題をとらえて問い・仮説をたて、検証し、新たな課題を知る探求する力の素地を習得させる。
- ②社会に開かれた教育課程の具現化を図る。
⇒実社会を学ぶためのカリキュラムマネジメントを教務・ミドルリーダー層で検討し、関係機関等の洗い出しを行う。
⇒コミュニティ・スクール委員会、学校地域支援本部等の立ち上げ準備として、各所との連携や協働する教育活動の検討を行う。
 - ・学校評価アンケート結果を次年度の改善内容に確実に反映し、学校と保護者・地域と連動した教育活動

を進める。

③Society5. 0時代を見据えた教科指導や領域指導を意識し、職務に当たる。

⇒社会のトレンドに敏感にアンテナを張り、研鑽を積む。

④生徒が大きく成長できる行事等では、各分掌が計画的に検討し意思疎通を十分に行い、前年度の改善点を反映したよりよい実施要項を余裕もって提出する。なお、「生徒が生徒を育てる」の継承は行事だけではなく、普段の学校生活にも生かせる仕組みを検討していく。

(3)特別支援教育の充実

①生徒一人ひとりに応じた一貫した指導により、自己理解を深めよりよい社会性を身に付けられるよう特別支援委員会の活性化を図る。

⇒気がかりな段階での情報共有を徹底し、具体的な対応策を検討し全校体制で実践する。

⇒個別の支援計画、指導計画の立案・実施・検証を行い、当該生徒の得意とする能力の延伸と社会性の向上を図る。

②特別支援教室、特別支援学級との連携を充実する。

⇒生徒間交流の場を拡充する。

(4)地域、関係機関との連携強化による教育活動の活性化

・前述のコミュニティスクール委員会、学校地域支援本部等の学校教育への参画をめざし、地域教育力の潜在能力を確認していく。

・PTA、町会、校外学習での協力団体等との協議を進め参画できる分野の確認等を行う。

・上記連携機関に期待する教育活動への支援内容を校内で検討する。

(5)円滑な部活動の地域移行(働き改革の1つとして)

・港区教育委員会事務局の運営方針を十分に理解し、本校の部活動指導状況を十分把握する。

・部員である生徒たちが混乱しないよう、一つひとつの部活動の特性を把握しきめ細やかな指導体制を検討し、円滑な移行を実施する。

・保護者への十分な説明と協力を得るほか、外部指導者との十分な協議を進め地域移行を着実に進める。